

会話から読み取る 企業実態

第6回

前払費用と支払利息

㈱経済法令研究会・講師 三浦 英晶
㈱ブレインコンサルティング

(平成23年3月)

山邊潤氏の自宅兼仕事場を訪問中である。山邊氏は2年前に「ナチュラルフリー」というブランド(屋号)を立ち上げ事業を開始し、主にヘアトリートメントを製造している。

ヘアケア市場は、近年、大手メーカー各社が新商品を投入したことで消費者の注目を浴び拡大した。なかでもヘアトリートメント商品は、若年女性を中心にカラーリングやヘアアイロン、コテなどの使用による髪のダメージに悩む人が増加していることから消費が伸びた。また、ヘアサロンなどでヘッドスパをはじめとした地肌ケアがトリートメントメニューとして注力されたのも市場拡大の要因となった。消費者の嗜好が多様化してきているなかで、各社は細分化した商品展開を行っている。

今回は山邊氏から、設備資金、運転資金融資の依頼があつ

【要約貸借対照表】

(単位:千円)

項目	金額		項目	金額	
	H21年度	H22年度		H21年度	H22年度
流動資産	8,969	5,355	流動負債	13,510	8,702
┆(うち前払費用)	0	220	┆(うち短期借入金)	8,987	6,258
固定資産	16,589	13,986	固定負債	8,880	7,322
┆有形固定資産	12,954	10,875	┆(うち長期借入金)	7,710	7,017
繰延資産	3,035	2,928	純資産	6,203	6,245
資産合計	28,593	22,269	負債・純資産合計	28,593	22,269

【要約損益計算書】

(単位:千円)

項目	金額	
	H21年度	H22年度
売上高	7,134	7,424
売上原価	3,567	3,712
売上総利益	3,567	3,712
販売費および一般管理費	3,811	3,372
┆(うち研究開発費)	500	0
営業利益	-244	340
営業外費用-収益	428	298
┆(うち支払利息)	417	277
利益金額	-672	42

た。新葉は、今回の面談前に直近2年分の決算書を預かっている。

山邊:「うちの製品は、完全に無添加なんです。つまり、天然由来の原料を使用し、天然には存在しない化学合成物質を使用していません。私の友人が開発に係わった「特殊原料X」を配

合しており、この原料を含むことで髪に潤いを与える効果を無添加で実現しているんです。この特殊原料Xを製品化しているのは今のところうちだけです」

新葉:「すごい製品なんです」
山邊:「現在、何らかのアレルギーマを持つ人は3人に1人といわれています。それに関係してか、無添

加の製品はニーズが高いんですよ。実は「無添加」ってよく言いますが、無添加の定義が意外にも曖昧で、無添加を名乗っている製品でも成分を見てもいろいろなものが入っている、結局それが原因で使う人の相性が悪いとトラブルが起きることもあるんです。本当に自分に合ったものを探すことに苦

労している人は多いと思いますよ。うちの製品はいろいろなものを配合しすぎないようにして、シンプルな成分構成にしています」

新葉：「実は私の家内もアレルギーがあつて、無添加商品オタクなんです。山邊さんがおっしゃっていることはよく分かります。……さて、お預りした決算書を拝見いたしましたね、昨年度は黒字化しましたね」

山邊：「とりあえず、といった感じです。良いものをつくっているという確信はあるんですが、まだ思うように売れませんが、でも、現在この特殊原料Xの効果を確認するべくさまざまな検証実験やサンプル調査を進めています。これまでに、髪以外にも肌への保湿効果も高く、敏感肌の人でもトラブルなく使ってきています。また、人間だけでなく花にも効果があつて、花の寿命が延びることも分かっています。……さて、お預りした決算書を拝見いたしましたね、昨年度は黒字化しましたね」

保湿効果だけじゃなくて、抗菌作用があることも徐々に分かってきたんです。これらの効果を生かした製品をこれからどんどん出していく予定です」

新葉：「Xというのはすごい可能性がありそうですね。しかし活発に実験や調査を進められているんですね？ 前期の決算書には研究開発費は計上されていませんが……」

山邊：「……ん、そうなってますね……」

新葉：「計上のやり方で何か大きく変えた点はありませんか？」

山邊：「……決算書上でのようになつているかはお願ひした税理士さんに聞いてみないとほんとにも……」

新葉：「そうですね。あと、前期は新たな借入はされていませんよね？」

山邊：「それはないです」
新葉：「費用や資産などの詳細が分かる資料を拝見できますか？」

山邊：「はあ、いま手元にないので、後日お送りします」

新葉：「よろしくお願ひします。……ところで、山邊さんはこの事業を始められる前はどのようなお仕事に就かれていたのですか？」

山邊：「自分はずっと技術畑の人間ですよ。今と似たような仕事です。なので、できれば営業活動とかは人を雇って任せたいと思つています」

新葉：「そうですね。ただでさえ、新しい製品を売っていくのは本当に難しいこととお察しいたします」

新葉の判断

今回、新葉は、山邊氏の話から、研究開発にかなり注力しているにもかかわらず、平成22年度は研究開発費としての計上がないことに対し、これらの費用をほかの費用科目に計上していることも考えられるが、その場合でも販管費総額が少ないので

はないかと考えた。

面談後に送られてきた資料を確認したところ、平成22年度は平成21年度と同等の研究開発費500千円が繰延資産として計上されていた。また、前払費用の内訳を確認したところ、220千円すべてが前払利息であり、4か月分の利息が計上され、21年度と同様の方法で損益を計算し直すと、利益金額はマイナス623千円となる。平成22年度も21年度と同等の赤字だ。

山邊氏の製品開発にかける思いや、特殊原料Xの優位性には

納得したが、今回もベンチャービジネスの難しさを感じた。

新葉の実態推測 (単位：千円)

項目	簿価	→	実態推測
前払費用	220	→	55
支払利息	277	→	442
研究開発費	0	→	500
利益金額	42	→	-623